

【12-11】

町家を改装した NPO オフィス

townhouse renovation for NPO office

○田中悠介*、岩佐明彦*²、川村成正*³、長谷川崇*⁴、赤熊宏紀*、巨亮*、中川朋子*、
鎌倉敏士*、櫻井佑*、竹内敦志*、中野将人*、宮越敦史*○TANAKA Yusuke, IWASA Akihiko, KAWAMURA Narimasa, HASEGAWA Takashi, AKAGUMA Hiroki, JU Liang, NAKAGAWA Tomoko,
KAMAKURA Satoshi, SAKURAI Yu, TAKEUCHI Atsushi, NAKANO Masato, MIYAKOSHI Atsushi

本作品は町家の店舗部分を改修したNPOの事務所である。リノベーションを行った店舗部分は戸を開けると外に対して開放的となる造りであるため、その開放性を生かした設計とし、近隣住民が気軽に立ち寄れるオフィスを目指した。オフィスはローコストであったためセルフビルドによって行い、床張り、棚の制作、トイレ工事等を依頼者と話し合いながら少しずつ計画を進めた。

keyword 町家 改装 オフィス

townhouse renovation office

■背景 本作品は町家を改装したNPOのオフィスである。ローコストで作ることが求められたため、セルフビルドでつくることとなった。またこの町家の持っている特性を生かした設計とすることとした。

■敷地 対象となる町家は新潟市の中心市街地に程近く、町家など古い建物が残っている下町（しもまち）地区にあり、昔ながらの商店街である本町通りに面している。リノベーションを行う店舗部分は元は青果店であったため、引き戸を開くと道路に繋がりととも開放的な作りとなっている。地域住民もこの町家の前をよく通り、前に置いているベンチには人が佇む姿がよく見られる。

■設計趣旨 NPOのオフィスとして地域の住民が立ち寄りやすい「開放性」と執務空間としての「プライバシー」の確保が求められた。

①開放性 土間空間は4面中2面がガラス引き戸となっており、開放的な造りとなっていたため、その開放性を残すこととした。引き戸をすべて開けると床面と外を連続して縁側のような使い方が出来、周辺住民とくつろぐ場となることを狙った。

②プライバシー 通りからオフィス内部が見えてしまうためデスク周りトイレは通りから見て奥に配置し、視線を遮るデザインとした。またポリエチレン

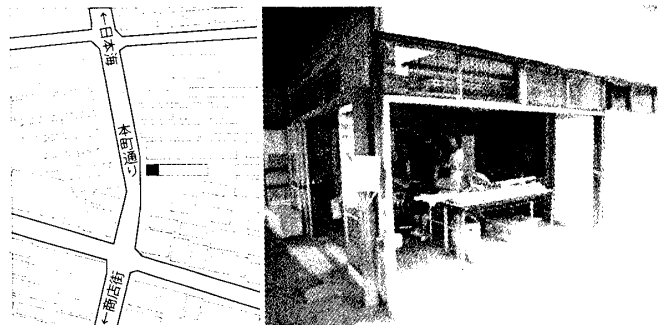


fig.1 配置図

fig.2 改装前写真

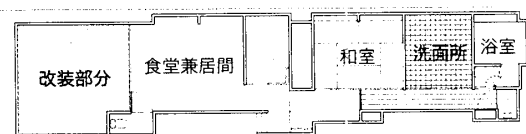


fig.3 町家全体平面図

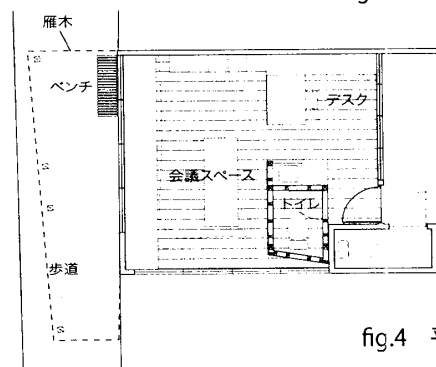


fig.4 平面図 1/150

* 新潟大学大学院自然科学研究科 博士前期課程
*² 新潟大学工学部建設学科 助教授・博士（工学）
*³ 前田建設工業（株） 修士（工学）
*⁴ 新潟大学大学院自然科学研究科 博士後期課程

Graduate Students, Graduate School of Science and Technology, Niigata Univ.
Assoc. prof., Dept. of Architecture, Faculty of engineering, Niigata Univ., Dr. Eng.
Maeda corporation., M. Eng.
Graduate Students, Graduate School of Science and Technology, Niigata Univ., M. Eng.

作業名	月日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
引き戸の補修			■■■■■	■■■■■					
ペンキ塗り				■■■■■					
床張り						■■■■■	■■■■■	■■■■■	
トイレ設置								■■■■■	■■■■■
棚作成									■■■■■
カーテン作成									■■■■■

fig.5 工程表

フィルムシートを利用した半透明のカーテンによって、遮蔽と同時に断熱性能を上げている。

■制作における工夫 工事は週に1日程度のペースで半年間かけて行い、依頼者のNPOと少しずつ話し合いながら計画を進めた (fig.5)。

町家自体が老朽化しており、引き戸が開かない状態だったため、引き戸を補修し、開放性を確保した上で工事を開始した。

工事に使用した材料は構造用合板、OSB合板、ポリエチレンフィルムシートなどDIYショップで容易に安く入手できる物とし、材料を統一することでローコスト化をはかった。

床面は根太を使用せず大引きを土間に固定した後、その上にサネ付き構造用合板24mmを打ち付け、仕上げのパイン材を敷いた。オフィスで使う棚も床材と同じ構造用合板で統一し、ローコスト化をはかった。

トイレは執務空間内に独立して設置するため、音漏れが起こらないように壁体内に発泡スチロールを詰め、防音性能を高めた。換気は独立したトイレからパイプによって外部につなげた。

■制作を終えて 半年間という長い工事の中では当初の計画とは異っていき、作りながら考える場面が多く発生したが、最終的にはオフィスとしての一通りの機能をそろえた開放的な空間となった。今後、私たちがこの開放的な空間を利用し、情報提供等の働きかけをすることによって周辺住民が気軽に立ち寄り、くつろげる場を構築することを試みたい。



fig.6 外観写真

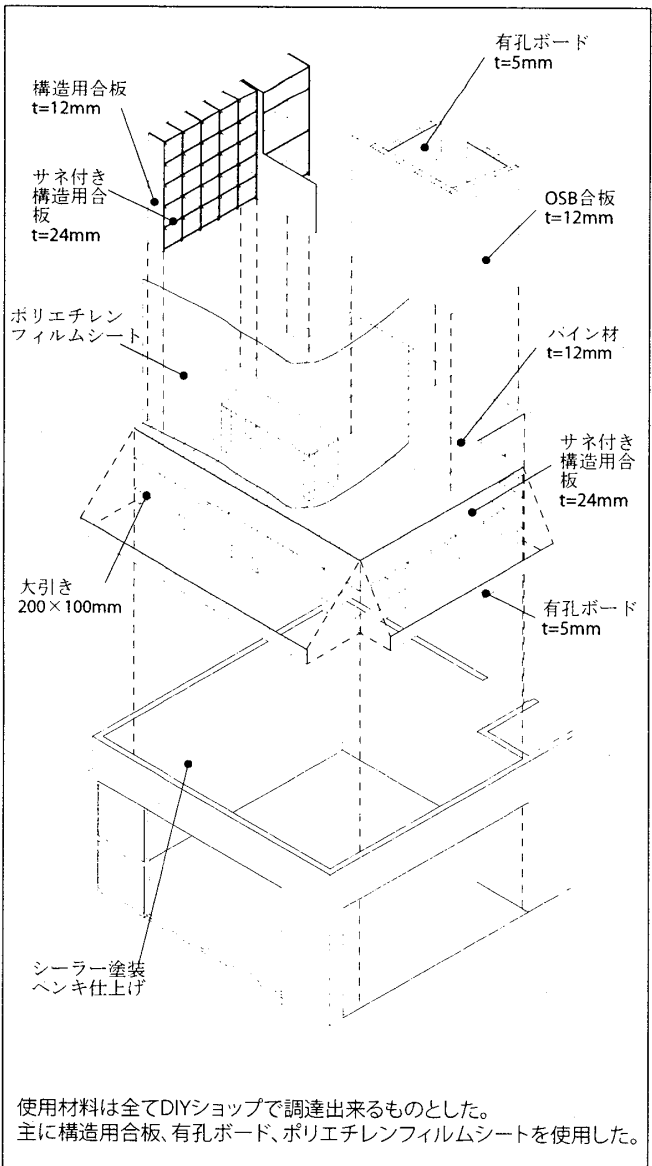


fig.7 アクソメトリック



fig.8 内観写真